

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AU318／哲学講義 1 (Lectures on Philosophy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	西洋哲学		
担当者名 (Instructor)	渡名喜 庸哲(TONAKI YOTETSU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	PCW2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、現代フランス哲学を扱います。

毎回具体的なテーマを設定し、それに関連する現代フランスの哲学の議論を紹介します。

よく「フランス現代思想」という表現が使われますが、それが指しているのは 1960 年代～70 年代の思想であることが多いです。もちろんそうした思想も重要ですし今もなお読む価値がありますが、本講義では、むしろそれ以降から現代までの時代をとくに扱います。授業で紹介する哲学者には著名な人からあまり知られていない人もいますが、総じてなかなかスリリングで面白い考察を展開しています。現代のフランス哲学の面白さを伝えることがこの授業の第一の目標です。また、とりわけアクチュアルな問題について、そうした現代フランスの哲学者たちが何をどう論じてきたのかを知ることは、履修者自身がさまざまに考察を深める際にも多分に参考になると思います。その点が第二の目標です。

The aim of this lecture is to give an account of a general feature and the importance of contemporary French thought. It provides with students some philosophical points of view of contemporary French thinkers around a variety of topics. Although "Contemporary French Philosophy" may sometimes refer to that of 1960s and 70s, this lecture focus on its more recent trends around more actual issues.

授業の内容(Course Contents)

授業ではある程度時系列に従いつつ、毎回一つのテーマを取り上げます(授業計画を参照)。

それに関する一人ないし複数の哲学者の思想(テキスト)の解説を通じて考察を深めます。

Basically, this course will be conducted in a chronological order with a concrete theme on each lecture. Each time it will pick up one or plural philosophers, in order to give an account of his/her/their philosophical insights on the related theme.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:〈68 年の思想〉と〈ポストモダン〉
2. 正常と異常:フーコーとジョルジュ・カンギレム
3. いつから社会は自己責任になったか:フーコーとフランソワ・エヴァルド
4. ヴァーチャル化する社会:ドゥルーズとボードリヤール
5. フランス共和主義とその他者たち:フランスにおけるイスラムとユダヤ
6. 他者を受け入れる?:レヴィナス、デリダ、ジャン＝リュック・ナンシー
7. 西洋が西洋について見ないでいること:ピエール・ルジャンドル
8. フランスのジェンダー思想:ボーヴォワールからカトリーヌ・マラブーへ
9. テクノロジーをどう考えるか:ベルナール・スティグレールとポール・ヴィリリオ
10. 新實在論と SF 的世界:カンタン・メイヤス
11. 「人間狩り」と「ドローン」:グレゴワール・シャマユ
12. カタストロフィを哲学する:ジャン＝ピエール・デュピュイ
13. 気候変動／人新世を考える:セルジュ・ラトゥーシュとクリストフ・ボヌイユ
14. 食べることの哲学:コリーヌ・ペリュシオン

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・毎回の主題についてあらかじめ自分自身の考えをまとめておく。
- ・授業内容を踏まえ、自身の考察をまとめる(リアクションペーパー)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 中間レポート(20%) / 授業への参加(コメント等)(40%)

テキスト(Textbooks)

用いません。適宜授業でプリントを配布します。

参考文献(Readings)

1. 石田英敬、200810、『現代思想の教科書』、ちくま学芸文庫 (ISBN:978-4480092793)
 2. 岡本裕一郎、2015、『フランス現代思想史 構造主義からデリダ以後へ』、中公新書 (ISBN: 978-4121023001)
 3. 川口茂ほか、2020、『現代フランス哲学入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623084982)
- 適宜授業で紹介しますが、以上の3冊は参考になるでしょう。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

「哲学概論」、「哲学への扉」、「哲学対話 in Rikkyo」などの導入科目をすでに履修していることが望ましいです(必須ではありませんが未修の方は上記科目の履修を推奨します)。

注意事項(Notice)